

## 大地の恵みで生きる

屈斜路コタンアイヌ民族資料館のこの箇所では、アイヌの伝統的な家屋、食料、狩猟、衣服、宗教、および祭りに焦点を合わせた展示を見ることができます。

### アイヌの家屋

アイヌの住居には、母屋（チセ）と、それとは別の仮小屋（クチャ）がありました。クチャは狩猟の際に使われていました。チセは茅葺屋根で、木・草・樹皮などの天然素材で建てられていました。クチャは、夏には魚獲りの拠点、冬には狩りの拠点として使われており、村に日々の食料源を確保するために不可欠なものでした。記録に基づいて、実際の屈斜路コタンのチセの内部が展示されています。

### 衣服

アイヌの衣服は簡素かつ実用的であり、華麗な模様はほとんどありませんでした。屈斜路コタンアイヌ民族資料館の所蔵品は、日常着の機能性に注目したものです。北海道の他の博物館では、祭りのために使われるアイヌの衣服を展示する傾向があります。祭りのための衣服は、より色鮮やかで、手の込んだ模様が描かれています。

### 狩猟

アイヌは狩猟の専門家であり、その土地に関する知識を使って野生動物を追跡していました。アイヌは、主としてニホンジカ、ヒグマ、ウサギを狩っていました。また、アイヌの人々が、サケ、マス、ウグイ、イワナ、イトウ、チョウザメ、およびシジミなどの貝を食べていたということも、考古学的調査によって明らかになっています。資料館のこのエリアには、槍、弓、矢、小刀など、狩猟と魚獲りに使う道具が展示されています。

### 宗教

アイヌの信仰の中心は「カムイ」にあります。カムイとは、自然および動物の中に現れる神々のことです。アイヌには、これらの神々を敬う多くの祭りや儀式があります。すべての動物の中で最も崇められているのはシマフクロウで

す。シマフクロウは、アイヌ語でコタン・コロ・カムイ（村の守り神）と呼ばれます。過去には、多くのシマフクロウがコタンの周りに住んでいました。シマフクロウの鳴き声は、獲物がいる方向を村人たちに知らせるものでした。この知識は、狩りを成功させる上で非常に貴重なものでした。

屈斜路コタンアイヌ民族資料館のこのエリアには、人々の祈りをカムイに届ける儀式の間に使う、木製の彫刻のある捧酒箸や祭壇とともに、儀式やその踊りの写真が展示されています。